

平成30年度 第3回磐田市地域公共交通会議 議事録

日時	平成31年3月20日(水) 13時30分から14時30分
場所	磐田市役所 西庁舎3階 302・303会議室
出席状況	<p>委員</p> <p>会長 川口 宗敏(静岡文化芸術大学名誉教授)</p> <p>副会長 水野 勲(磐田市自治会連合会副会長)</p> <p>増田 暢之(磐田市議会議長)</p> <p>保本 広司(中部運輸局静岡運輸支局)【代理】</p> <p>石田 正國(静岡県交通基盤部都市局地域交通課)【代理】</p> <p>太田 憲一(磐田警察署交通課)【代理】</p> <p>三浦 洋一(静岡県袋井土木事務所企画検査課長)</p> <p>荻原 成夫(袋井市総務部長)</p> <p>大杉 美智子(元いわた女性市民会議)</p> <p>山下 六機(磐田市老人クラブ連合会副会長)</p> <p>杉山 美智子(磐田市民生委員児童委員協議会理事)</p> <p>小野田 剛久(遠州鉄道株式会社運輸業務部長)</p> <p>大多和 直彦(秋葉バスサービス株式会社代表取締役社長)</p> <p>藤田 守康(静岡県タクシー協会西部会竜東支部支部長推薦)</p> <p>杉浦 一徳(遠鉄タクシー株式会社取締役営業本部長)</p> <p>田中 友親(遠州鉄道労働組合副執行委員長)</p> <p>高田 眞治(磐田市副市長)</p> <p>事務局</p> <p>袴田自治市民部長</p> <p>地域づくり応援課: 磯部課長、新井主査、野末主任、神谷主事</p>
傍聴者	1人
内容	<p>報告事項</p> <p>遠州鉄道路線バスの退出</p> <p>その他</p>

発言者の記録	要点記録
録音の有無	有
会議記録	<p>1 開会 (事務局)</p> <p>今回、臨時で開催する理由としましては、今後予定している路線バス退出について現状をご理解いただくとともに、市民の方や磐田市を訪れる方々の貴重な交通手段になっていますので、本会議において事前に報告し、検討期間を設けて、その後の会議で協議する形をとらせていただきたいと思います。</p> <p>2 会長あいさつ (川口会長)</p> <p>本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。さて、本日の会議は、報告事項が1点、情報提供が3点ございます。報告事項としましては、遠州鉄道株式会社から、遠州鉄道路線バスの退出について報告していただきます。情報提供としましては、秋葉バスサービス株式会社、遠鉄タクシー株式会社、磐田市都市整備課より説明があります。</p> <p>磐田市の公共交通全般に関わる重要な案件でございますので、活発なご意見、ご審議を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、お手元の次第に従いまして議事を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。</p> <p>なお、要綱第5条第2項の規定により、委員の出席が半数を超えておりますので、本会議が有効に成立していることを、ここでご報告申し上げます。</p> <p>3 報告事項 ○遠州鉄道路線バスの退出について</p> <p>(遠州鉄道株式会社)</p> <p>報告事項ということで、磐田市に係る運行系統の今後の対応について、資料をご覧くださいと思います。はじめに、遠鉄バスの現状と今後の考え方をご説明させていただきたいと思います。</p> <p>利用人員の減少が止まらないということで、人口が減少しているという側面があります。お子さんも減っているということから、通学の利用も少なくなってきました。非常に厳しい状況となっています。路線維持というところにつきましては、公共交通でもありますから、ダイヤの適正化や貸切バス等、公共性も勘案した努力を続けています。貸切バスにつきましては、当社も140台ほど車両を保有していますが、乗合バスに比べれば、公共性は若干低いので、貸切</p>

バスの受注は抑えています。

国の補助制度である国庫補助金や磐田市の補助金を活用して、路線維持に対する努力をずっとしています。利用者の減少はさらに深刻化しておりまして、2年ほど前に現行の国庫補助制度が見直しという情報が出て、地元自治体や事業者から反対の声もあり、いつ見直しがされるかわからないという状況です。

将来に向けて、地域公共交通としての路線バスのあり方について、行政と協議していくことの必要性を感じているところです。

追い討ちをかける乗務員不足ということで、昨日春闘の妥結がありまして、通常の春闘は賃上げの話し合いですが、深刻な乗務員不足をどうするのかといった情勢です。そういったことから、普通免許を持っている方に、自動車学校に行く費用は当社で負担するという前提で採用しています。補助金があるから維持できているという以前の乗務員の問題があり、仕事量に対する必要な乗務員の人数が常に6~7%不足しているという状況にあります。路線バスという形態であれば、満員で50人ほど乗れますが、便によっては数名、場合によっては0人ということもあり、バスという手段から地域にあった持続可能な公共交通体系への再編をしていかなければならないということで、地域の皆様と話し合いをしながらどう維持していくかというところにきています。浜松市や袋井市においても言えることで、磐田市に限ったことではないということも酌んでいただければと思います。

次に、中ノ町磐田線『袋井系統』ということで、磐田営業所から袋井の間につきまして、2019年3月末をもって2往復しているものを0.5往復の夕下り1便のみにさせていただいて、9月末をもって完全に退出させていただきたいと思います。時刻表については、磐田営業所を19時に通過して袋井に行く便を9月末をもって退出させていただきたいと思います。

磐田市立病院福田線『山梨系統』については、磐田市立病院方面を減便するとともに山梨系統の退出にむけて関係市と協議を進めるということで、2019年3月末をもって、4往復しているものを0.5往復の朝上り1便のみとさせていただき、9月末をもって完全路線退出させていただく予定です。磐田市立病院以遠を路線廃止し、磐田市立病院以遠から磐田市内への通学利用については磐田線（秋葉バス）の代替利用をご案内させていただきたいと思います。時刻表については、7時29分山梨発の便を半年間は運行して、9月末をもって終了するという事です。

城之崎線『浅羽系統』・『東新町系統』については、浅羽地区ならびに東新町地区の路線退出に向けて、関係市との協議を進めるということで、2019年の9月末をもって東新町よりも浅羽寄りへは退出するという事です。2020年9月末をもって、『東新町系統（西之島上）』と『東新町系統（鎌田）』を退出する予定です。利用実態に応じて運行回数の見直しを実施し、浅羽系統において路線退出に向けた協議を進め、2019年度末の御厨駅開業を受けた東新町地区路線退出に向けて協議を進めるということです。2019年9月末をもって退出す

るのが東新町～浅羽中学間、2020年9月末をもって退出するのが東新町系統、東新町～磐田駅間は1時間間隔で運行していきまして、日中は西之島上経由と鎌田経由に2つに分かれています。西之島上経由は2時間おき、いわゆる鎌田経由は2時間おきに運行しています。御厨駅ができますと、御厨駅から東新町住宅までが非常に近くなるものですから、利用者の利用が少ないと予測しています。

掛塚さなる台線『横須賀系統』については、福田車庫から横須賀までの系統でして、静岡県ならびに関係市との協議を進めています。すでに報告済みですが、2018年9月末をもって、8往復運行していたところを4往復に減便しました。磐田市内から横須賀高校に通っている学生の利用が多いので、2018年度に入学した子が卒業する2021年3月までは運行させていただいて、その後は退出させていただきたいと思います。結果、「横須賀系統」は、「豊浜郵便局」系統に集約していくことになります。

スケジュールを見ていただいて、労災篠ヶ瀬線については協議済みということで、①～⑤について、退出に係る部分は赤字で示してあります。

それぞれ時期は異なりますが、冒頭の内容が背景にあるということをお酌みいただいてご理解いただければと思います。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、質問等ございますでしょうか。

(静岡運輸支局)

この中で国庫補助金を受けている系統はありますか。

(遠州鉄道株式会社)

城之崎線『浅羽系統』と掛塚さなる台線『横須賀系統』が対象になっています。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、質問等ございますでしょうか。

(議長)

ないようですので、これにて質疑を打ち切ります。

4 その他

「車載器の老朽化に伴うパサーカードの販売中止と使用期限などについて」秋葉バスサービス(株)より説明

「一般タクシー運賃の改定予定について」遠鉄タクシー(株)より説明

「御厨駅設置事業と（仮称）新磐田スマート I C 設置推進事業の概要と進捗状況について」磐田市都市整備課より説明

以上で、本日の報告は全て終了

連絡事項【事務局】

- ・次回の開催日程について（平成 31 年 5 月下旬から 6 月上旬開催予定）

5 閉会